



学校だより

横浜市立菊名小学校

6月号

令和4年5月31日

平和への力強いスピーチ

校長 野間 義晴

梅雨の訪れを告げる季節の便りとして愛されてきた、あやめやかきつばたが紫色の気品にあふれ咲き始めます。多くの方のご理解とご協力で、無事日光修学旅行に出かけることができました。

また、6年生はよこはま子ども国際スピーチコンテストに取り組みました。テーマは国際平和のために、SDGs（持続可能な開発目標）をもとに私たちができること、自分がやりたいことです。各クラスの代表児童が体育館でスピーチを発表しました。1組北原さんは、障がいの有る無しにかかわらず誰もが安心して豊かに暮らせるように、差別や偏見が無い世の中となるよう、「幸せは毎日の生活の中にある。」という心もちが大切と発表しました。2組荒尾さんは、「陸の命を守る。」ためには、生物と環境と人間の輪は切り離せない。だから、ペットを守る活動を例にひとつの生命に責任をもたなければならないと主張しました。3組佐久間さんは、給食から、世界の食糧事情に思いをはせて、「均等に分ければ世界中の人々が食べられるはずなのに。」と、平和でなく十分に食べられない状況があること、学校に普通に行けることが実は普通ではないことを改めて実感していました。4組大村さんは、広島に住んでいたころに行った「黙とう」の経験から、その意味や原爆や戦争の恐ろしさを考え、「自分は正しいことができる人になりたい。」と思いを世界に広げていました。



いずれも素晴らしいスピーチでした。世界中、平和を願わない人はいません。しかし、そのためには平和をつくり、守っていくためにできることを自ら考え、実行していかなければなりません。今だからこそ、一人一人が平和のために、自分の考えや自分ができることを自分の言葉で表現することによって、平和に対する意識を高め、平和のために自ら実践しようとする態度を育成することが重要だと思います。国際平和の大切さを広く世界に呼びかける、こうした本市の取組は、横浜市の子どもの国際平和の重要性に対する意識を高め、国際社会で自分たちのできることを実践しようとするグローバル人材の育成にほかならないのです。6年生の力強いスピーチから大きな力をもらいました。